

## 第451回鉄鋼流通問題懇談会議事録

日 時 2020年1月28日(火) 14時30分より  
場 所 茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第1会議室  
出 席 者 経済産業省 篠原課長補佐  
橋本会長(JFE スチール)

### 全国鉄鋼販売業連合会

会長 阪上(清和鋼業)  
副会長 齊藤(栄鋼管)  
常任理事 井上(明治鋼業) 山岸(東邦シャーリング) 森下(ダイサン)  
澁井(澁井鋼材店) 武部(武部商店)

メーカー 森安・南浦(JFE)

商 社 島津(伊藤忠丸紅鉄鋼)小田(メタルワン)笹本(岡谷鋼機)中山(住友商事グローバル  
メタルズ)廣崎(JFE商事)間瀬(阪和興業)南(兼松トレーディング)松浦(日鉄住  
金物産)村岡(エムエム建材)

事務局 五藤、内海

- 議 題
1. 全鉄連流通動態調査報告
  2. 全鉄連情勢報告、地区別概況報告、阪上会長総括
  3. 意見交換および商社品種別報告、メーカー報告
  4. 経済産業省挨拶
  5. 会長挨拶

- 配 付 資 料
- (1) 全鉄連流通動態調査結果表(2019年12月分)
  - (2) 各地区業況アンケート1月調査結果
  - (3) 品種別報告、メーカー報告
  - (4) 鉄鋼需給推移表(2019年11月確報)
  - (5) 普通鋼鋼材主要品種別生産推移表(2019年11月確報)
  - (6) 全国市中鋼材数量調査(2019年9月)

### 経 過

#### 1. 流通動態調査報告

事務局より、配付資料に基づき、12月分の全鉄連流通動態調査結果について報告があった。別紙、流通動態調査結果(2019年12月分)参照。

#### 2. 全鉄連情勢報告

常任理事・理事より各地区の情勢報告、全鉄連事務局よりその他地区情勢報告があり、阪上会長が総括した。各地区の情勢報告は別添参照。

#### 阪上会長総括

各地区の報告を受け、阪上会長が以下のとおり総括した。会員企業の収益状況が厳しくなっている。業況アンケート結果によると12月単月で黒字、収支トントン、赤字それぞれの回答が3分の1ずつであった。実需も目新しい動きがなく、流通の収益は確実に悪化している。2019年の建築向けは年初から年間を通して前年を下回る動きだった。製造業向けは海外要因で昨年春先から輸出が落ち、夏場からは国内にまで波及し本格的に数字が落ち始めた。当会で調査している全鉄連流通動態調査結果をみても2019年1～12月販売は月次でほとんど前年割れであった。恐らく1～3月もこの流れが続くだろう。

### 3. 意見交換

#### ①商社・品種別概況報告

鋼管・伊藤忠丸紅鉄鋼（島津 鋼管部鋼管第二課課長代行）、薄板・岡谷鋼機（笹本 鉄鋼第一部鋼板室プロジェクトリーダー）、厚板・JFE商事（廣崎 東部鉄鋼本部厚板部厚板室）、棒鋼・形鋼・兼松トレーディング（南営業第二部部長代理）資料を参照。

#### ②メーカー報告

高炉（JFEスチール・南浦営業総括室課長）より、最近の景況感などについて報告が行われた。報告内容は別添「メーカー報告」を参照。

### 4. 経済産業省挨拶（篠原課長補佐）

昨年12月に鋼材需要見通しを発表した。2019年度ベースの粗鋼生産も1億トン割る数字となっている。昨年11月、大臣が交代した。早めに鉄鋼業界の皆様と懇談会を開く予定である。厳しい状況だが、通商問題はじめ鉄鋼業界取り巻く問題、労働環境問題など意見交換をトップレベルで行っている。しっかりと共有して対応していきたいと思っている。経済対策、補正予算を執行するため、皆さまの景気や財政面での下支えをしていきたい。各メーカー、高炉、電炉含め生産計画を策定させて頂いた。電炉メーカーのコメントを聞くと1～3月、新年度に向けて大変厳しい見方をしている。オリンピック・パラリンピックはイベント的には経済を押し上げるが、我々の物流面でマイナス面が出てくると思っている。国内のイベントに対してどのような影響が出てくるのか、関係省庁、関係業界に連絡し対応していきたい。米中問題である追加関税は回避できたので現状落ち着いている。大統領選に向けて更なるリスクが出てくる可能性がある。その影響が皆様の商売に直接的、間接的に出てくる場所も、しっかり大臣レベルで調整していく。皆さんの意見を取り入れて、丁寧に対応していきたい。

### 6. 橋本会長挨拶

3ヶ月前に比べると貿易摩擦、自然災害、消費税増税の問題で堅調であった自動車販売にも影響が出てしまった。3ヶ月前より停滞感が増してきた。2020年度、オリンピック・パラリンピック、個人消費は盛り上がり期待されるが、首都圏は経済活動、前半は苦戦を強いられるのではないかと。楽観視できるものが乏しいうえ、新型肺炎の影響が世界の工場である中国を発信源としているため、中国の生産、経済活動がどうなるか状況を見ていく必要がある。その上でメーカー、流通、商社がさらに綿密に需要動向をみて受発注を才覚に行い、需給バランスを整える必要がある。見通しが立つまでもう少し踏ん張りどころである。

※次回の会合予定

2020年4月22日(火)午後2時30分より茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟第一会議室」

以上